

岩手県重症心身障害児（者）を守る会

第105号 H30.2.15発行

TSK

会報 愛の手

編集・発行 岩手県重症心身障害児（者）を守る会  
〒020-0831 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内  
☎019-601-2255 FAX 019-601-2255（共有）  
E-mail mamoru2255@gmail.com  
発行責任者 齊藤 勉



守る会の  
三原則

- 1.決して争ってはいけない 争いの中に弱いものの生きる道はない
- 1.親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加するものは党派を超えること
- 1.最も弱いものをひとりももれなく守る

今年もよろしくお願ひいたします



福寿草

東北ブロック国立施設部会長 村上 芳邦

やわらかな日差しが、軒下の氷柱をつつみ水晶のような雫が、かすかな音をたてながら音楽を奏でている。厳寒の季節、一時の安らぎを与えてくれます。

さて、国の福祉施策も、『医療型障害児入所施設と医療介護の両方の指定を同時に受ける現行のみなし規定を恒久化する』との方針が示されました。私達の長い間の取り組みが実を結んだものと思っています。それを受け、全ての重症心身障害児（者）施設が、万全の体制で実施に向け準備してほしいものです。

「あなたのお子さんの人生は二十歳までです」とお医者さんに宣告されたり、子どもの入所の際お願ひし、車に戻っても服に染み付いた臭いがとれず、しばらく走ってからまた施設の玄関に戻ったものの、泣く泣く車を走らせたときの事を考えると、現在の障害児（者）に対する医療・療育環境は年々整備されて来ているように思います。まだまだ未整備の所があるにしても、私にとっては、今でも49歳の息子が会う度に笑顔を見せてくれる楽しみがあるのは、実情を訴え、改善をお願ひし続けたお蔭と感謝しております。

また、重症心身障害児（者）に対する教育に於いても、「就学猶予等」という安上がりの教育制度から、教育の機会均等の理念のもと、全ての子どもたちに教育の機会を与えてほしいとお願ひしたら、いち早く教育環境の整備をしてくれたのは、東北の中で岩手県が最初であったと聞いています。東北各県の模範となった事は、素晴らしい事だと思っています。

子ども達もそれに応えるように、学習発表会等では学習の成果を十分に発揮し、私達に感動を与えてくれると同時に、教育財政の厳しい中、実現に向けて大変だったと思っています。

私達は、真に子どもの事を思い、ご苦勞なされた多くの人達に感謝するとともに、刻まれた歴史を糧にし、未来という白地図に新たにすばらしい模様が描かれ、子どもたちがより充実した医療・療育環境のもと、笑顔絶やすことのない日々を過ごすことが出来たらと願っています。

雪解けを待って、鮮やかな黄色い花を咲かせる福寿草のように

## クローズアップ現場

## 独立行政法人 国立病院機構岩手病院



## 療育指導室長 安齋 康雄

独立行政法人国立病院機構岩手病院の重症心身障害児（者）病棟をご紹介します。

岩手病院は一関市街地の西北部、一関インターから降りてすぐにあるどろたの丘の中腹にあり、病棟は地下1階地上6階建の免震構造で平成28年に完成したばかりです。旧病棟からは平成28年10月18日に引っ越しを行いました。

1階と2階は一般病棟、3階にリハビリと療育部門。4階から6階までに、重症心身障害児（者）病棟のあすなろ4病棟、あすなろ5病棟、あすなろ6病棟があります。

1階と2階は一般病棟、3階にリハビリと療育部門。4階から6階までに、重症心身障害児（者）病棟のあすなろ4病棟、あすなろ5病棟、あすなろ6病棟があります。

広く明るいきれいな病棟ですが、環境が変わったため引っ越し当初は戸惑いを見せていた患者様方も今ではすっかり新しい病棟に慣れ、プレールームや南側の病室からの一関市内を一望できる眺望を楽しまれています。

各病棟は、病室が南北の窓側に設けられた広く明るい4人部屋11室と、個室6室からなっています。また、病棟の中央には吹き抜けとナースステーション、浴室が配置されています。

3階にはリハビリ室の他、旧療育訓練棟に変わる療育訓練室を設け、スヌーズレンやリズムダンス、イルミネーションの他あすなろ祭りや演奏会など各種行事で患者様に楽しんでいただいています。

また、平成28年度から3ヶ年計画で年度毎10床ずつ計30床増床し、平成30年度にはあすなろ病棟全体で150床となる予定です。さらに重症度に応じ病棟毎に機能を分ける傾斜配置も実施しています。

これは国立病院機構北海道東北グループの重症心身障害児（者）病棟では、3番目の規模となります。

今後も、患者様の支援目標に沿ったグループ活動や個人の嗜好や特性に合わせた個別活動など、日々の療育活動や季節行事を通して患者様が明るく楽しく生活できるよう取り組んでいきます。

最後に、ドローン撮影した岩手病院PRビデオが当院ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧いただければと思います。



岩手県福祉基金助成事業 地域福祉活動事業

# 交流茶話会

母親部会、在宅部会との合同で、事業を開催しました。

## 県北地区交流会

平成 29 年 10 月 12 日（木）、岩手県二戸地区合同庁舎大会議室にて開催いたしました。

会場設定には、二戸保健福祉環境センター・福祉課長さんを初め職員の皆様には大変お世話になりました。有難うございます。

県北地区は、4市町村を合併するとカシオペア星の形をしていることから、別名”カシオペア連邦”とも呼んでいます。

出席者の方々も、県、市町の職員、小学校、中学校、支援学校の先生方や保護者の皆さん、各事業所の皆さん、等々、30名の参加がありました。

会場からの声を下記にまとめてみました。

- 学校も、二戸地区、久慈地区、八戸地区と多地域に亘っての利用になっている。特に、八戸市の支援学校を利用した場合、卒業すると学校からも離れてしまい、なかなか顔を合わせる機会もなく、相談する仲間もない。
- 支援学校内に、重度の障がい児は一人だけなので、何をどこに相談したなら良いのか困っていた。今回のこの会で色々な事業を使えることがわかって、参加してとても良かった。
- リハビリの施設がないので、盛岡市や八戸市まで通っている。地元のリハビリをしてくれる所が欲しい。
- 手をつなぐ育成会に入っている。親も高齢になっているが、子どもも30歳～50歳と年齢が高くなっている。短期入所を未だ利用したことがないので考えたい。また、施設入所も考えて行きたい。

県北地区には、”発達支援センター風”の療育相談員さんや、”地域生活支援センター・カシオペア”の相談支援専門員の方々、”ふぁーすとシート”の理事長さん等々、強い味方がおり、色々な情報や支援方法のアドバイスを頂きました。

また、支援学校、地元の小学校、中学校の先生方も障害を持った子供たちの為に、工夫を凝らしながら支援して下さっていることが伝わってきました。

これからも、何かと相談して行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



## 沿岸南部地域交流会

平成 29 年 10 月 29 日（日）釜石いこいの家を会場に開催いたしました。

当日の準備を担当して下さった釜石地区の”うえるかむ”の皆様、有難うございました。あいにくの雨模様でしたが、参加者一同の熱気に雨も押され気味。

出席の方々も当守の会の会員の他、一緒に活動しているお母様とお子さん、日頃お世話になっている大船渡市、釜石市の各事業所の職員の方々、支援学校の先生方、釜石市地域福祉課の課長補佐さん、そして、国立釜石病院の院長先生、療育指導室長さん等々総勢 35 名の参加でした。皆さんから、日頃から感じている沢山のご意見、要望等が活発に話されました。

- ショートステイの場が少ない。

医療ケアがない子であるが受け入れてくれるところがない。

日曜日とか、兄弟・姉妹の行事の時、受け入れて貰えない。

急な事案の時、看護師が居ないからと断られる。

- 高等部卒業後に利用したいが、介護事業所が少ない。

- 地元でリハビリをしてくれるところがない。遠路盛岡市まで通っている。

お母様方からの切実な意見や要望等に対して、参加して下さった事業所の職員の方から、とても有意義な回答も聞くことが出来ました。

また、国立釜石病院の院長先生から、『しゃくなげ愛育園』の紹介があり、スタッフの皆様の、入所者の方々に対する療育の熱意を感じ取ることが出来ました。また、ショートステイについても、2床の確保があるので利用可とのうれしいお話がありました。



※事業を終わって、各地区共通の課題は、近くにリハビリをしてくれる施設がない事、ショートステイ事業所の不足、専門職員、特に看護師不足が挙げられています。このことを踏まえた取り組みを、会員皆で頑張っていく事が課題と思いました。

## 編 集 後 記

立春も過ぎ、暦の上では”春”ですが、岩手の春はもう少し先でしょうか？

今年は、例年よりもインフルエンザの流行で大変ですね。皆様は如何だったでしょうか？

インフルエンザと言えば速攻、高熱が出るが目安でしたが、今回は、36度台の熱でも発症する『隠れインフルエンザ』が出ているとの事で、風邪気味かなと思いつつ、会社や学校に出て、蔓延している原因がここにもあると、あるメディアの情報です。

まだまだ油断できません。皆さん揃って、元気に新年度を迎えたいですね。

Y.F 記